

私達の活動は、全て皆皆様からの善意のみで運営をまわっており、いつも温かいご協力、本当にありがとうございます♡



せきぐち歯科 NEW ハロアル新聞

受付だより



みなさん、こんにちは。冷え込みも大分緩んできましたね。季節の移ろいは春の代名詞「桜」の便りを今月終盤には届けてくれることでしょう。とはいえまだ油断のできない余寒の日々は続きます。花粉症を患う方々にとっては一番悩ましい季節の到来でもありますね、お大事にしてください。

先月はハローアルソン・フィリピン医療ボランティアの現地活動を今年も無事に終えることができました。貧困のスラムに暮らす人々に、無償の歯科治療と支援物資の配布に、新しい取組みとしてシャワー・アクティビティを含む4日間の活動です。みなさんにご協力いただいた支援物資のタオル・ハブラシ・固形石けん、活動資金となる募金、本当にありがとうございました。みなさんのご協力なしではここまで続けてこれなかった活動です。すでに来年の活動に向けての準備が始まっています。どうか今後とも温かなご支援ご協力をお願い致します。ハミガキは、小さなころから身に付けたい習慣の一つですが、虫歯や歯周病を防ぐために「しっかり磨く」ためには、磨き方と、費やす時間も重要です。「ハミガキしていても虫歯になってしまふ」との声を聞くことがあります。もしかしたら「しっかり磨けていなかったのかも」かもしれません。一度虫歯になった歯は、治療して終わりではなく、ハミガキの弱点と捉え、よりハブラシのあて方を意識して下さい。ハブラシ選びも大切です。当院おススメの柔らかいハブラシ「ブロスベックコンパクトスリム」で毎日のハミガキを行い、歯科検診を併せてお口の健康を守りましょう。

(歯科コンシェルジュ 菊地正子)



NEWプロジェクト始動!!!

ランドセル大作戦!!

この春より、新しい支援物資として「ランドセル」を集めることとなりました。

日本独自の文化であるランドセル。しかし小学校を卒業すると、処分されず押し入れや倉庫に保管されているケースがほとんどです。

6年間の思い出が詰まったランドセルをスラムの子供達に寄付し子供たちの夢をつないでみてはいかがでしょうか？

ランドセルの寄付でボランティアとリサイクルの輪を広げましょう!!

※詳しくはスタッフまでお声掛け下さい。

10年以上も使っても壊れても幸せ♡



新聞周りの口で囲まれた空間には、フィリピンボランティア活動における協賛者名が記名されます。私たちのこの活動は、みなさんの善意(募金)のみで全ての運営をまかなっているのが現状です。物資輸送費や現地活動費は多額の資金を必要としています。そこで、

会社名やサークル、個人名、インシヤルなど、どんな名称でもかまいません。30000円の協賛をして下さる方を募集しています。尚、協賛金は全額ボランティア活動に寄付されます。詳しくは、スタッフまでお尋ね下さい。皆さんの協力をよろしくお願い致します。



2018年 ハローアルソン・フィリピン医療ボランティア 現地活動 大・大・大 増刊号!!!

今年でハローアルソン・フィリピン医療ボランティア13回目の活動となりました。

14年前に出会ったアルソン君は、貧困のためハブラシ一本が買えず、当時10歳という年齢で大きな虫歯のため前歯の永久歯を4本抜かなければならませんでした。

貧困のため治療を受けることの出来ないスラムの子供達は、痛みが出れば抜歯をするしか痛みを取る方法はありません。

もう二度とアルソン君のような子供達を増やさないという思いから「ハローアルソン」の活動がスタートしました。

歯科医師	20名	薬剤師	3名
耳鼻科医師	1名	看護師	4名
歯科技工士	4名	高等学校教員	2名
歯科衛生士	14名	一般参加	10名
歯科助手	6名	中・高校生	50名

今年の参加人数は、総勢114名!!!

● 2018年 活動報告

医療奉仕活動

	2月9日	2月10日	計
クリーニング	142	291	433
※保存	48	48	96
抜歯	171	290	461
義歯	11	14	25
耳鼻科	52	58	110
シャワーブース	186	260	446
投薬		1	1
その他		5	5
合計人数	610人	967人	1,577人

* 保存: 詰め物で歯を治す治療

約2千人の方々の
「ありがとう。」は
皆様ののおかげです!!

今年も無事活動を
終えることができました!!
『サマッポ』と笑顔で帰
行くスラムの方々。私達は
皆様に支えられこの活動を
できています。
今年も、たくさんことを学び、
考えた4日間となりました☆
これからも、ご協力よろしく
お願い致します♡感謝

物資配付活動

	2月8日	2月11日	計
物資配付	80	500	580
(物資配付内容) ハブラシ8本・石鹸2個・タオル2枚・お米2kg			

歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手

現地で行う活動は様々・・・私達は4日間こんな活動をしてきました！

今年で7回目の参加となりました。今年は技工ブースに携わることが多く、義歯製作を間近で見ることが出来ました。我々の活動では、歯を抜く治療が多い中、噛めるように治すことができる義歯の治療、延いては噛めるということはとても素晴らしいものだ改めて感じました。

毎年、沢山の事を考えさせられ、学ぶことができます。また更に成長できるよう、精進して参ります。

(歯科衛生士 北島紗希)



今回の活動で私は、クリーニングと口腔内写真撮影係でした。クリーニングブースでは超音波スケーラーを用いて歯石除去、歯磨き指導を行います。硬い歯石が多量に、全体に付着している方がたくさんいらっしゃいました。

口腔内写真撮影係では、抜歯の前後の写真などを撮影しました。8歳で6歳臼歯を抜歯する子もあり、何度この活動に参加しても日本との違いには慣れることはないと思いました。

(歯科衛生士 池田琴美)



フィリピンのスラムでの医療ボランティア活動は普段、日本で作業をしている時のように恵まれた環境で入れ歯作りをすることは出来ません。

しかし、スラムの多くの人たちも入れ歯を必要としています。今年は25床と昨年よりも多くの入れ歯を製作することができ、その分多くの人の笑顔を見ることが出来たように思います。

ボランティア活動で学んだ貴重な体験を活かして日本でも頑張ります。

(歯科技工士 榎本明乃)



私の担当は消毒ブースです。歯科医師の皆さんが抜歯などで使用する道具などを準備・消毒まで行います。

現地では、スラムの方々と接する機会が一番少ないブースですが、周りから聞こえてくる患者さんを励ます高校生の声に活力をもらい、子供達が治療中泣いてしまう声を聞きながら、目の前に広がる光景を自分の子供とどうしても重ねずには居られず、たくさん事を考えさせられた活動でした。

(歯科助手 人見理紗)



今年も皆さんのおかげで無事にボランティア活動を行うことができました！！
2018年の壁新聞をご期待下さい。



2月8日 (活動初日)

物資支援活動



719 Zone 78 District 5 Venue 80人に配付

一人につき 歯ブラシ10本・タオル2枚・固形石鹸2個・お米2キロ

今回はA班B班と2班に分かれ、A班は高校生を中心とした物資配布チーム、B班は大人を中心とした器材準備チームとなつて別々の活動を行いました。

現在、フィリピン政府の政策によりマニラ市内の治安向上維持のために以前は多数存在していた数千人単位の大きなスラムを解体したことにより大規模な支援を必要とする地域が少なくなりました。

しかしそれは住民たちの生活が向上したのではなく、もともと地方から職を求めてマニラにやってきた人たちが結局職を見つけないで、スラムに住み着いて作った集落が強制的に再度地方へ追いやられただけに過ぎません。

私たちが訪れたエリアはマニラ市内のほぼ中心部に位置し、近くには動物園もあります。周囲は沢山のビルに囲まれ一見とても華やかに見えますが、一歩路地に入ると無数の電線が蔓延る都会のスラムならではの風景が見えてきます。

(ここでは80名のお年寄りたちに上記の物資を高校生たちが直接手渡すことができました。

今年の参加高校生は
46名!! 集合ー!!



サラマッポ(ありがとう)



会場には私達を待つ姿が



久しぶりのお米
ありがとう!!



今年は初日からたくさんの笑顔が!

スラムの子供たちは笑顔です

スマイル



2月9日 (活動2日目) 医療奉仕活動初日

場所: San Rafael Balut : Tondo

患者総数 610名

ここは1980年代後半「フィリピン」の貧困の象徴と言われた「ミ」の収集所「スモーク・マウンテン」が存在していた場所です。

この地域には約4万人の人たちが生活しています。住民たちは主に工場勤務が多く、一日の収入は約300ペソ(日本円約620円)で食事は主に昼と夜の2回です。就学率は小学校は無料のためほぼ100%ですが中学校は有料のため約60%ほどです。

また、この地域で病気になった場合は無料の診療所はあるものの、薬は在庫次第でそのほとんどが十分に行きわたることはありません。特に歯科治療に関しては非常に高価で診療所も少なく、痛みがある場合は極限まで我慢をし、最後は抜歯となってしまう。

ここではスラムの中心に位置する教会を治療会場として使わせていただきました。信仰心の厚いフィリピンの人たちの神聖な場所で行われる医療ボランティアに沢山の人が列をなしています。

事前に現地スタッフがこの地域で最も貧しい家庭を調査しその家族から一人だけ治療を受けることができる「チケット」を配布しています。その為大きな混乱はありませんが時間や人数、公平性の問題から全ての人々を治療することはできません。各担当ブースに分か現地統括責任者西先生の号令の下治療が始まりました。

高校生たちも初めて見る光景に戸惑いながらも一生懸命活動をしていました。

治療を待つ人達



院長の抜歯を手伝う
梶本 伊谷玲奈



ギシを作るための形取り中
歯科衛生士 北島



紙芝居は
全て手作り!!

全ての器具を消毒!!
歯科助手 人見



口腔内の写真を撮って
記録として残します。
歯科衛生士 三田



2月10日 (活動3日目) 医療奉仕活動2日目

場所: 「Brgy .Pineda .Pasig City」

患者人数.....967名

この地域は川沿いにマカティと呼ばれるフィリピン第二の商業都市に近接しています。大きな川に分断され向こう側には沢山の高層ビルが立ち並び貧富の差が歴然と分かるエリアです。このエリアには約2万人のひとたちが生活しています。スラムに住む人たちは一日2食です。ここに住む人たちの多くはトライシクル(バイクタクシー)の運転手が多く収入は一日300ペソです。スラムの人たちでも歯が痛くなつた場合どうするでしょうか。この地域には無料の歯科クリニックがないために治療を受けることはできません。また、痛み止めは高価なために漢方薬のようなハーブティを飲んで我慢をするそうです。

地区のリーダーは私たちの活動を本当に喜んでくれました。生まれて初めて歯科治療にかかる人も多く、初めて虫歯の存在や痛みの原因を知った方も沢山いらっしゃいました。

ここでは地域内の小学校にあるバスケットコートを治療会場としました。昨日同様、今回の活動は大変「抜歯が多いのが特徴です。それはそれだけ貧困状況が深刻であり重度な症状の患者さん等が多いことを意味しています。また、義歯の作製を希望する方も多く、例え抜歯をしたとしても一つの義歯を作るのに数千ペソ必要となるためスラムの人たちにとって義歯は大変貴重なものとなっています。義歯製作ブースでは4人の歯科技工が昼食の時間も惜しみながら一生懸命制作してくれました。

歯科医師だけでなく
耳鼻科医も参加しています。

日本では治せる歯も
フィリピンでは抜歯となります。。。



全員で気持ちを1つに!



↑当院院長

↑会長 林先生



高校生による
歯磨き指導!

↑プレゼントした歯ブラシで♪



2月11日 (活動最終日) 物資支援活動

場所: Kaingen Kawit . Cavite 500人に配付

一人につき 歯ブラシ10本・タオル2枚・固形石鹸2個・お米2キロ

この地域は私たちが10年以上支援させて頂いているエリアで私たちの数十年前の友人でもあり日本からの物資を大切に保管し、活動中は現地通訳として長年支えて下さるボンセ家の人達が住むエリアです。古くから地元の名士でもあるボンセ家の人たちはいつも周囲のスラムの人たちや刑務所や災害地域を訪れ物資や食料の支援をされています。

この地域には約3000人が住んでいます。就学率はわずか5〜10%で小学校までで、親に仕事がないために中学校以上に進学することもほとんどありません。住民たちは主に漁業や建設現場などで生計を立てていますが、一日の収入は約300ペソ(日本円で約660円)程度です。食事は一日1回〜2回で私たちが支援した物資、特に石鹸などはとても貴重なものなのです。

ここには高校生たちが最後の物資配布をしました。たくさんの人たちが長蛇の列を作っています。高校生たちは日本から皆さんに支援していただいた物資を一人ひとり丁寧に笑顔で手渡してくれました。

私は一人物資を抱いた女性に尋ねました。「今日もらったお米はどうするの?」彼女は嬉しそうに「もちろん今日食べるわ。このお米はとても美味しそう。私は尋ねました。この石鹸は?」今日すべて子供たちの体を洗ってあげるわ。彼女が満面の笑みを浮かべながら「来年も必ず来てね。」と言い残しましたスラムに帰って行きました。



はいっ チーズ!!

スラムの子供たちと高校生と一緒に!



たくさんスラムの人が私たちを待ち望んでいます。



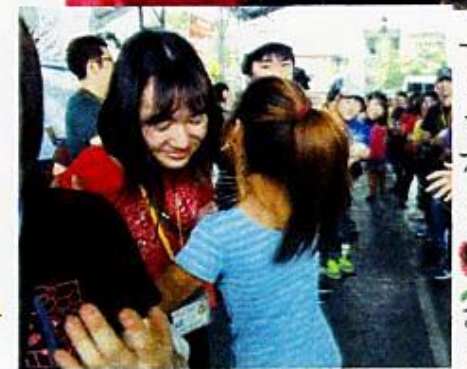
笑顔は世界の共通語😊



We are チーム 板木!



神様のチケット



高校生 マニラ・ミーティング

「夢」

このミーティングは毎年一つの議題にそって高校たちに様々な意見を話し合ってもらいます。

これは決して「答え」を見つけないものではありせん。

親元を離れ、友達とも、学校とも離れた環境で、世界の貧困の現実を肌で感じた高校生たちが考えるものは何か。

日本では当たり前のように、食べることも着るものも、教育も医療も全て満たされた社会で生きている私たち。

その当たり前前の現実が、フィリピンのスラムではどれほど尊いものなのか。今日食べることも困窮し、たった歯ブラシ一本、鉛筆一本が買えず、日本では治せる歯も次々と抜歯されてしまう医療現場を目の当たりにする高校生たち……

私たちの活動理念「4本の柱」にもある、「活動を通じ自らの生活を見直し、真の豊かさを考える」として「これからの時代を担う高校生たちが真の国際平和と国際貢献を考える」

教育を受けることができる素晴らしい医療を受けることができる素晴らしい生活を送ることができる素晴らしい「当たり前」に生きていることが、いかに「素晴らしい」ものなのか……。全てが満たされた社会に生きる者が全てに満たされない貧困で必死に生きる若者を見たとき、彼らは何を考え、何を思うのでしょうか……。

はじめて見た光景に思わず涙を浮かべます。



★ 2日目、高校生 全員集合 ★



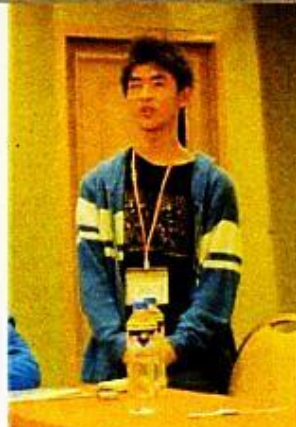
キラキラした笑顔



仲間、意見に耳を傾け……



↓ 栃木から参加した伊谷さん ↓



高校生 マニラ・ミーティング

「両親からの手紙」

高校生ミーティング3日目の夜、両親からの手紙が渡されます。これは事前に内緒で「両親にお願いをして、現地で一人一人手渡ししました。」

突然のことに驚く高校生たち。最初はざわついていた彼らも少しずつ言葉を失くし、会場は静まりかえります。

どれほど親が子を心配し、愛しているか。その当たり前のことにこのフィリピンの地での医療活動や物資配付を通して改めて感じました。

日本では上手く伝えられない「親への感謝の気持ち……」ボランティアを通じ、劣悪な環境でも精一杯生きるスラムの子供たちの笑顔と触れ合い、彼らの心の中の「何か」が変わりました。そして溢れ出す涙……

若さ故の親や学校、社会に対する言いようのない気持ちも、ボランティアを通じ、家族の愛を痛感した時、彼らの心を覆っていた壁が涙となって流れていきます……

Team 栃木

伊谷玲奈の目にも涙が……



親からの大切な手紙です。↑

親からの愛にふれ何を想うのでしょうか、



会場が静まりかえります。



普通はなかなか耳にすることがない親の言葉に……



この手紙を通して、改めて親の有り難みに気がつきます。



思わず込み上げる涙……



スラム街で生きる子供たち

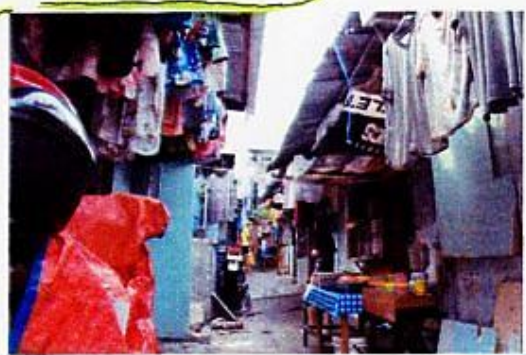


湿度が高く洗たくは外に干しています!!

ゴミを拾いながら生活をする現状は、いつになっても変わることはないのでしょうか...

「15歳まで生きること。」笑顔で夢を話す子供たち...
ここに写る子供たちの笑顔が一年でも長く続くように...
私達に「出来ること」とはいったい何なのでしょう...

おやっ待ち♡

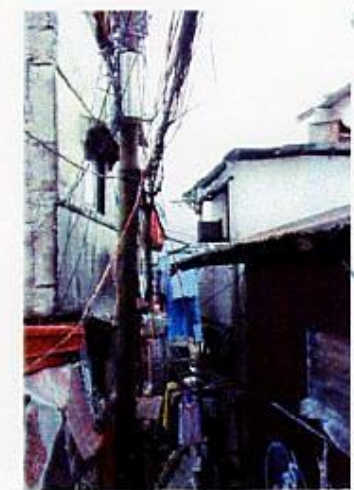


家の中の様子...

全て自分たちで"作った"つぎはぎの家です

電線は自分たちで勝手につないでしまふ

TVがあることにビックリ!!



軽食を作り生計を立てています

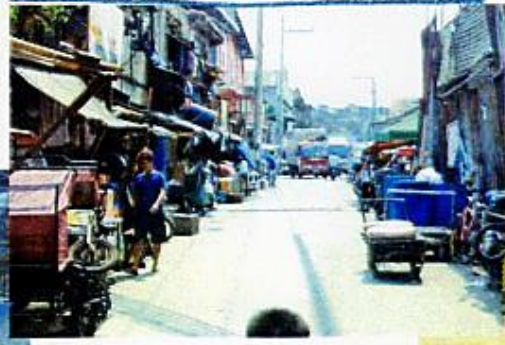


川添いのスラムは常にゴミで"異臭"が漂っています。



Tシャツは大人サイズ

水道がないので"ハミカキ"は外で行います!!



マニラ市内からほんの少し車で走った"だけ"で通りにはスラム街が...



ゴミをやる幼児



NEW!!

シャワーアクティビティ

今年から新たな取り組みとして5歳〜10歳の子供たちを対象に「シャワー・アクティビティ」を医療活動2日間の中におこないました。

これは地元マニラ・ロータリークラブの協力を得て消防車の給水車を利用し、スラムの子供たちを皆さんからいただいた石鹸やシャンプーを使い体や髪の毛を洗ってあげる活動です。

スラムの子供たちは、日本のように毎日きれいな水を使って体を洗うことができません。汚水や雨水を貯め、時にはスコールが降ると天然のシャワーとして一斉に外に飛び出して体を洗うほどです。

また、石鹸は大変貴重な生活物資のため頻繁に使うことはできません。そんな彼らのために今回看護師・介護士を中心とし高校生もお手伝いをしてしながら当初要諦していた200名を大幅に超える446名の子供たちを洗うことができました。

2つの簡易シャワーブースを作りましたが長蛇の列がでみんなとてもうれしそうに久しぶりのシャワーを楽しんでいました。

順番を待つ子どもたち



みんな、笑顔 😊

3回目の参加、根本さん



高校生の時から継続して参加してくれています。



体を洗ってもらえて嬉しそう！



Yaaaaah ☆



院長手記

「感謝を込めて」

2月8日～11日までの4日間、今年も無事現地でのボランティアが終了しました。これもひとえに日頃より沢山の方々がこの活動を支えて下さるお陰です。心から感謝申し上げます。

活動の詳細については「活動報告集」並びに「院内壁新聞」にてご報告させて頂きまますのでどうか皆さんご覧になつてくださ

い。今年で13回目の活動となり、私自身团长として11年目を迎えることとなりました。当初「目の前の患者のために」という思い一心で参加を決意しましたが、今ではその思いを胸にボランティアを通じ様々な出会いや経験の中でいつしか私自身が経済的、社会的に弱い立場のスラムの人たちから人間として最も大切な「心」を学ばせて頂いています。特に現地の活動においては私たち歯科医師の役割はほんのわずかであり、それを支えて下さる方々の存在、そして日本から1本の歯ブラシに思いを託して下さる皆さんの存在無くしては到底この活動は成り立ちません。

現地での治療は主に「抜歯」となっています。日本では決して抜かない歯もここでは様々な理由のために抜かなければならなりません。しかしその歯はまるで抜かれるのを拒み「抜かないで、抜かないで」と叫ぶように強固に骨の中に埋まっています。抜歯器具から「ミシ、ミシ」という音が伝わってきます。歯科医師としてこんなに辛い瞬間はありません。

涙をためながら口を大きく開ける子供たち。口からは血が滲み落ちていきます。

私は歯科医師としての自分の無力さを痛感し、苛まれ、それでもやらなければならぬ責任感に心を痛めながらようやく処置が終わります。そして子供たちの涙を優しく拭き「頑張ったね」とほほ笑む瞬間、涙を拭くタオルには「那須塩原市〇〇建設」や「栃木県〇〇」など皆さんが集めてくださった地元の名刺が目につくのです。私はその度に「一人ではない、沢山の人が支えてくれているのだ」と勇気づけられ、また次の処置に向かいます。

皆さんからご協力頂いた物資を手にしたとき、スラムの人たちは本当に嬉しそうな顔をします。慢性的な栄養不良で生きているスラムの子供たちの中にはたった1本の虫歯の菌が全身に影響を及ぼし死亡してしまう子も少なくはありません。しかし、今日食べることも明日生きることと約束されない貧困地区ではお米1.5キロよりも高価な歯ブラシを買うことは到底できません。もちろん、歯科医院に通うことなどできず痛みが出ればこめかみをさすり神様に祈るだけです。まさに皆さんが集めてくださった歯ブラシは単に彼らのお口の健康だけではなく「命のバトン」となつて彼らの命を守っているのです。

今、この地球上に76億人の人間が住んでいるといわれています。その中で約8人に一人が慢性的栄養不良で尊い命を落としています。貧困は私たち人間自らの我欲が作り上げた最大の不条理でありその歪を最も受けるのはいつの時代も未来ある子供たち

です。そして76億人の内、日本国のように安全な水を飲み、有り余る食糧があり教育、医療、福祉など社会的恩恵を皆が一定に受けられる「豊かな国」はわずか10%しか存在しません。そしてその10%の我々が残り90%の人たちの資源や食料に依存して生きているのです。この現実を「運命」という言葉で私たちが素通りして良いのでしょうか。

私たちは偶然にもこの日本という豊かな国に生まれることができました。しかし、飛行機でたった4時間の場所に、今も尚ゴミ箱に手を入れ、町を裸足で歩き、一日中物乞いをして生きなければならない子供たちが沢山います。

私のような一人の歯科医師ができる事など本当に微々たるものです。しかし、この医院に通院していただきスラムの現状を少しでも感じていただけたら、ほんの少し足を止め皆さんの優しさを分けて頂けたら幸いです。そして皆さんがこの医院に歯ブラシ1本、100円玉一枚をご寄付していただけるように、世界中の人たちが武器を握る拳を広げ、互いの手を取り握り合い、自分たちだけの幸せを願うのではなく、誰かの幸せを祈り行動に移すことができたらしつと世界は平和になるはずで

す。これからも誠心誠意みなさんのお口の健康と恵まれないスラムの子供たちのために一生懸命頑張っていきたいと思っております。どうかご協力のほどよろしくお願い致します。